

- 血球のエンドトキシン応答：組織スロンボプラチン（第Ⅲ因子）の新生と凝固亢進。第56回日本生化学会，生化学，55(8)，592。
- 15) 中村 伸，竹中 修，高橋健治(1984)：組織スロンボプラスチン：高感度測定法及び白血球系での産生機序。第42回日本生化学会中部支部例会，抄録，pp.12
- 16) 中村 伸，竹中 修，高橋健治(1984)：エンドトキシン及び関連誘導体による白血球 tissue factor (血液凝固第3因子)の新生。日本薬学会第104年会，要旨集，pp.435。
- 17) 堤 肇，勝又義直，中村 伸(1984)：霊長類及び近縁種の法医疫学的研究—抗ヒト血清に対する血漿抗原性の種間比較—。第28回プリマーテス研究会，抄録，pp.24。
- 18) 浅岡一雄，高橋健治(1983)：ウシ肝臓グルタチオンS—トランスフェラーゼの一次構造解析。第56回日本生化学会大会，福岡。
- 19) 笹川澄子，鈴木和男，藤倉敏夫，浅岡一雄，高橋健治(1983)：霊長類種間における感染防御能の差異：多形核白血球の走行性ペプチドに対する感受性。第104年会日本薬学会大会，仙台。

## 系統研究部門

江原昭善・野上裕生・相見 満・瀬戸口烈司・松本 真<sup>1)</sup>

### 研究概要

#### 1) 霊長類各分類群の比較形態学的研究

江原昭善

1. ヒトおよび霊長類の下顎骨の機能的・形態学的研究

2. ヒトおよび霊長類各分類群における頭蓋底部の形態と posture の関連

#### 2) ケニアおよびエチオピアにおける化石霊長類および化石人類の研究

江原昭善・木下 実

#### 3) 東海地方先史遺跡出土人骨・動物骨の研究

江原昭善・相見 満・松本 真・木下 実

#### 4) 東海洞窟遺跡の人類学的・先史学的研究

江原昭善・相見 満・松本 真・木下 実

#### 5) 硬組織の形態学的研究

野上裕生

#### 6) スマトラにおける第四紀地史の研究

野上裕生

#### 7) ジャワ島における第四紀哺乳類の研究

相見 満

#### 8) スマトラにおける霊長類の形態学的研究

相見 満・松本 真

#### 9) 第三紀食虫類・原猿および有袋類の研究

瀬戸口烈司

##### 1. 南米出土化石について

瀬戸口烈司・名取真人

##### 2. 南アメリカ大陸とヨーロッパ大陸出土の第三紀食虫類化石の対比

## 総 説

1) 江原昭善(1983)：人類の起源とアフリカ。アフリカ・ハンドブック，松本重治監修，米山・伊谷編。

2) 野上裕生(1983)：広鼻猿類の歯について—そのエナメル質を調べる—，モンキー 188：11-15。

3) 瀬戸口烈司(1983)：「サル」の墓場の発見—古生物学調査をささえるもの，季刊人類学 14-2：194-224。

4) 瀬戸口烈司(1983)：咬耗の進化史的意味，歯界展望 62-4：649-658。

5) 瀬戸口烈司(1983)：南米で「サル」の墓場を見つかる—コロンビアでの古生物学調査から—，モンキー 188:6-10。

6) 瀬戸口烈司(1983-4)：食虫類から霊長類まで，モンキー(その1) 188：24-27，(その2) 189-190：62-65，(その3) 191-192：46-49。

## 論 文

1) 江原昭善：ゲータの形態学を超えて—諏訪紀夫「病理形態学原論」を評して。モルフォロギア。ゲータと自然科学特集，第5号，ナカニシヤ出版。

2) Nogami, Y. & M. Yoneda (1983): Structural Patterns of Enamel in the Superfamily Ceboidea, *Primates*, 24-4: 567-575.

### 1) 研修員

## 報告・その他

- 1) Nogami, Y. & M. Yoneda (1984): Patrones Estructurales del Esmalte en la Superfamilia Ceboidea, Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys, 4: 1-10.
- 2) 宮尾嶽雄・相見 満・西沢寿晃(1983): 動物遺存体, 栃原岩影遺跡発掘調査報告書(昭和58年度), 信州大学。
- 3) Setoguchi, T. & A. Cadena (1984): Relacion Entre la Morfologia y la Funcion de la Dentadura en la Lineje *Stirtonia-Alouatta* (Ceboidea), Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys, 4: 11-20.

## 学会発表

- 1) 江原昭善(1983): 人間にとって技術とは一進化史的観点から一。日本心理学会第47回大会, 社会・産業部門シンポジウム。
- 2) 江原昭善・遠藤萬里(1983): Cercopithecoideaの下顎体側面観の形態学的特徴。第37回日本人類学会。
- 3) Setoguchi, T. (1983): Some New Cebooids (Primates, Mammalia) from the La Venta Miocene of Colombia, South America, 43rd Annual Meeting of the Society of Vertebrate Paleontology, Laramie, Wyoming, USA.
- 4) 瀬戸口烈司(1983): リスザルとオマキザル一系統関係を中心にして一。第37回日本人類学会日本民族学会連合大会。
- 5) 野上裕生(1984): タマリンのエナメル質と広鼻猿類のある進化傾向。第28回プリマーテス研究会。
- 6) 瀬戸口烈司(1984): 古生物学証拠と分子時計の調和と不調和一南米ザル系統論の例から一。第28回プリマーテス研究会。
- 7) 相見 満(1984): リーフモンキーの分布の展開について。第28回プリマーテス研究会。
- 8) 遠藤萬里・高橋秀雄・足立和隆・江原昭善(1984): オナガザル上科における下顎体側面観輪郭形状分化の生体力学的分析, 第37回日本人類学会。
- 9) 中久喜正一・江原昭善(1984): 霊長類各分

類群の肝臓内血管分布と肝葉区分。第89回日本解剖学会。第28回プリマーテス研究会。

## ニホンザル野外観察施設

川村俊蔵(施設長・兼)・東 滋・渡辺 邦夫・足沢貞成

本施設は幸島野外観察施設を改組拡充するというかたちで昭和53年度から新しく発足した。幸島のほかに、ニホンザルの分布北限である下北, 南限である屋久島, 中部日本の裏日本型気候の上信越, 表日本型の木曾の4つの研究林地域をあわせて, 5つのニホンザルの代表的な生息地についての研究保護区としての維持をはかり, 長期的に安定した条件下で, ニホンザルの研究を展開することを目的としている。

昭和58年度の各フィールドステーション関係の活動状況は次のとおりである。

### 1. 幸島観察所

幸島の群れは昭和23年以來の蓄積された資料をもとに野外観察施設の中では独自の位置を占めている。今年度は岩本俊孝(宮崎大)による採食生態, 樋口義治(愛知大)による野外でのオペラント学習実験, 井上美智子(大阪市大)による音声の分析等の研究が行われた。また特定研究「生物の適応戦略」の一環として, イモ洗い等の文化的行動の解析(河合雅雄, 渡辺, 樋口)や, 第3者による争いへの介入, 援護といった利他行動の実態(渡辺), 出産と食物量の関係(森明雄), 等の研究が行われている。今年度訪れた研究者は延270人日であり, その他大学, 報道機関等の関係者は延100人日以上になる。59年8月の時点での島内の個体数はマキ・グループ12頭を含め92頭であり, この10年間ほとんど変動していない。〔今年度中の出産は8例, うち5頭が死亡した。〕

### 2. 下北研究林

1983年度の積雪期の調査は足沢, 綿貫(北大・農, 共同研究員), 中山(北大農), が中心となり北大農・同ヒグマ研究グループの学生諸氏, 地元のあしの会(代表, 森治)の先生方, 京大, 野生研の研究者などの参加をえて12月20日から4月15日にわたって行われた。M群を115日間(うち113日間は連続追跡)観察したほか, 新しく発見されたM群の分裂群Araグループを28日間平